

博物館をより安心・安全に楽しんでいただくためのお願い  
 \*新型コロナウイルス感染症の状況により予定が変更になる可能性もあります。予めご了承ください。  
 \*ご参加の際はマスクの着用にご協力ください。当日体調に不安がある場合は参加をご遠慮ください。

企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」関連イベント

- 講演会「もののけ、幽霊、妖怪の日本史」 定員100名(先着順)  
9/4(土)13:30~15:00 講堂 小山聡子さん(二松学舎大学文学部教授)  
※歴史のなかの幽霊や妖怪とは？
- ワークショップ「オリジナル妖怪○○○をつくろう」 要申込 (定員18名)  
9/4(土)10:00~12:00 体験学習室・常設展示室 関本創さん(妖怪博士)、  
会津美術協会のみなさん  
※展示品からお気に入りの資料を見つけ、オリジナル妖怪を描いてみよう！  
※小中学生対象です。保護者の方が展示室に同行される場合は観覧料が必要です。
- トークライブ「あはひの存在と事故物件のあやかし」 要申込 (定員100名)  
9/19(日)13:30~15:00 講堂 松原タニシさん(事故物件住みます芸人)  
※事故物件に存在するあやかしとは？
- みどころ解説会 定員100名(先着順) 講堂 各回とも13:30~14:00  
9/23(木)、9/26(日)  
★他にも、会津若松市内の歴史的建造物等を会場にした連携イベント「宵まち会津～あはひ・あやかしのまちへようこそ～」(三の丸からプロジェクト若松城下まちなか連携事業)をご用意しています。詳しくは当館HPをご覧ください。

企画展「ふくしま 蕨の文化」関連イベント

- みどころ解説会 定員100名(先着順) 講堂 各回とも13:30~14:00  
10/9(土)、10/23(土)

キッズ・ファミリー向けイベント

- 博物館でも読み聞かせ 定員15名(先着順) 体験学習室  
読み聞かせボランティア団体の皆さん  
・9/11(土)①11:00~11:30 ②14:00~14:30  
・10/9(土)①11:00~11:30 ②14:00~14:30  
※ほっこりした時間をご家族で。  
※年間計画では午後の部は15:00~で予定していましたが、14:00~に変更になりました。

ポイント展ミニ解説会 各回とも11:00~11:30 一部申込制

- \*展示室タイプと講堂タイプがあります。展示室で行うものは、常設展チケットが必要です。
- 9/5(日)「発見！ハナワクジラ」 要申込 (定員10名) エントランスホール  
猪瀬弘瑛(当館学芸員)
  - 9/19(日)「ふくしまを耕した古代の農具」 定員100名(先着順) 講堂  
山本俊(当館学芸員)
  - 10/3(日)「葬儀と民具」 要申込 (定員10名) 部門展示室 民俗  
山口拓(当館学芸員)
  - 10/24(日)「ヒト形の付いた縄文土器」 定員100名(先着順) 講堂  
高橋満(当館学芸員)
  - 10/31(日)「くずし字に挑戦！③」 定員100名(先着順) 講堂  
阿部綾子(当館学芸員)

より深く知りたい！聴きたい！ 講座いろいろ

- 災害分野 講座 「楽しいそなえ」 定員15名(先着順)  
9/1(水)13:30~14:30 体験学習室 筑波匡介(当館学芸員)  
※いざというときのそなえを楽しく学ぼう！
- 美術 講座 美術放談3「自然への憧憬」 定員100名(先着順)  
9/24(金)13:30~15:00 講堂 川延安直(当館副館長)・塚本麻衣子(当館学芸員)  
※「自然へのあこがれを美術で表現する」とは？
- 美術 講座 福島の仏像を修復してみよう 定員100名(先着順)  
10/3(日)13:30~15:00 講堂 松岡誠一さん(仏像文化財修復工房 代表)  
※福島での仏像修復の事例や、修復の意義についてお聞きします。
- 自然史 講座 野外講座「化石をさがそう」 要申込 定員20名 有料 100円  
10/9(土) (雨天時には10/16(土)に順延) 8:20~17:45 塙町  
実技講座「化石標本をつくろう」 (前日の野外講座「化石をさがそう」参加者のみ)  
10/10(日) (前日の「化石をさがそう」が順延した場合は10/17(日)に順延) 13:30~15:30 実習室  
※自分だけの本物の化石標本ができる！
- 特別 講座 詩人のいる博物館1 あはひの話 『遠野物語』から2021年まで  
要申込 (定員100名)  
9/25(土)13:30~15:00 講堂 和合亮一さん(詩人)、土方正志さん(荒蝦夷代表)  
※詩人の和合亮一さんとお送りする特別講座。

令和3年度「東北文化の日」は、10月30日(土)・31日(日)です。11月28日(日)までの約1ヶ月間を中心に、東北各県の参加施設等において、無料イベント等の事業を実施しています。平成22年度より東北6県および仙台市が連携し「東北文化の日」事業を推進しています。東北の文化資源の情報を一体となって発信することにより、文化施設の利用促進や県域を超えた交流人口の増加を図ることを目的としています。

<イベントについて>  
 \* 要申込 の表記がないイベントは申込不要です。  
 \* 有料 (材料費や保険料など)の表記がないイベントは無料です。  
 \* 要申込 のイベントは、原則として開催日の一ヶ月前から(一ヶ月前が休館日の場合は翌開催日から)電話もしくは受付カウンターで受け付けます。定員に達したら受付を終了します。イベントの日時や内容に変更が出た場合、その都度ホームページなどでお知らせします。

【9・10月のポイント展】  
 ポイント展は、収蔵品を中心に、特別に公開する資料などを1点から紹介する小規模展です。

「土器のなかから コソニナル！」



須賀川市塚越遺跡 ヒト形の付いた縄文土器

- みんなの震災遺産 ~9/26  
※「いつも」と「もしも」のそなえを考えるきっかけになりますように！
- 会津若松と軍隊 ~9/26  
※会津若松に置かれた軍隊。軍隊での生活や当時の街の様子をご紹介します。
- 発見！ハナワクジラ ~9/26  
※中通りでもクジラとアシカの仲間が泳いでいた！
- ふくしまを耕した古代の農具 ~9/26  
※全国でも発見事例はごくわずか。謎の古代の農具「コロバシ」に注目！
- 葬儀と民具 ~10/20  
※大切な人を送る儀礼に使われた道具をご紹介します。
- くずし字に挑戦！③ 9/1~10/31  
※あえて解説なし(ヒントはあり)！新公開史料で腕だめし。
- ヒト形の付いた縄文土器 10/9~11/28  
※もしかして縄文ピクトグラム？
- 金属器を模倣した石器 10/9~11/28  
※これまでとは異なる視点で、ふくしまにおける弥生文化の一端をご紹介します。
- 厄流しと宝船 10/22~12/19  
※舟で流す、風をあげる、洗剤を贈る。ふくしまの厄払いが面白い！

2021年 9月・10月 イベント カレンダー


|   |    |    |    |    |    |    |    |
|---|----|----|----|----|----|----|----|
|   | 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
| 9 |    |    |    | 1  | 2  | 3  | 4  |
|   | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 |
| 月 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
|   | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
|   | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |    |    |

休館日 ■ イベント開催日 ■

|    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
|    | 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
| 10 |    |    |    |    |    | 1  | 2  |
|    | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  |
| 月  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
|    | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
|    | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |

観覧料

- 常設展観覧料 一般・大学生280円(20名様以上の団体は220円)  
\*敬老の日9/20(月)はすべての方の常設展観覧料が無料です。
- 企画展観覧料「あはひのクニ あやかしのクニ」一般・大学生1,200円(20名様以上の団体は960円)
- 企画展観覧料「ふくしま 蕨の文化」一般・大学生800円(20名様以上の団体は640円)  
\*企画展チケットで常設展もご覧いただけます(企画展開催中有効)。  
\*高校生以下は常設展・企画展ともに無料です。
- 年間パスポート 1,500円 購入日から一年間、当館主催の企画展や常設展を何度でもご覧いただけます。



■JR会津若松駅から約3km  
 ・タクシーで約10分  
 ・まちなか周遊バス「ハイカラさん」で約20分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)  
 ・まちなか周遊バス「あかべえ」で約30分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)

♿ 車椅子使用者用駐車場  
 ・博物館西側「鶴ヶ城三の丸口」バス停そば:2台  
 ・一般駐車場内博物館入り口側:3台  
 ※ご不明の点はお問合せください。

福島県立博物館 Fukushima Museum

開館時間9:30~17:00(最終入館は16:30まで)  
 ※夏の企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」は夜間開館日があります。詳しくは中面をご覧ください。

お問い合わせ TEL0242-28-6000 FAX0242-28-5986  
 〒965-0807 会津若松市城東町1-25  
 HP https://general-museum.fcs.ed.jp e-mail general-museum@fcs.ed.jp

<編集後記>  
 「不思議なもの」たちが集う夏の企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」。今回の企画展示室は、見慣れたはずの学芸員が見ても、いつもと違う異空間に仕上がっています。続いて、美りの秋に合わせて開催する企画展「ふくしま 蕨の文化」は、人々の手によって、神様から身近な動物・食べ物まで、いろいろなものに姿を変えたわらわら。わらわらと人々の暮らしと密着し、愛情をもって活用されてきたことが実感できますよ。(A)

なじよなVol.8 9・10月号 2021年8月24日発行 発行/福島県立博物館



なじよな Vol.8 2021 9・10月号

なじよな Vol.8 2021 9・10月号

なじよな Vol.8 2021 9・10月号

なじよな Vol.8 2021 9・10月号

企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」開催中の展示室 \*幽霊画(南相馬市金生寺蔵)・雷獣(津本家一記念日本妖怪博物館蔵)・水蛇之図(もりおか歴史文化館蔵)より

# 夏の企画展

## あはひのクニ あやかしのクニ

### ～ふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異～

7月17日(土)～9月26日(日)【会場】企画展示室

(9/5までは中期展示、9/7からは後期展示となります)

主催：福島県立博物館、福島民友新聞社、福島中央テレビ  
後援：株式会社 リオン・ドル コーポレーション  
協力：会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会

夜間も観覧をお楽しみいただけます！  
9/4(土)・11(土)・25(土)  
※19時まで観覧いただけます(入館は18:00まで)

福島や東北を中心に妖怪・幽霊・怪異といった理屈では説明のつかない不思議なものたちが大集合している本展。なじよな前号では展示概要や構成についてお伝えしましたが、今号では、展示を担当した山口さんと塚本さんに、展示タイトル命名の裏話や、展示がより楽しめるさまざまな「仕掛け」について、インタビューしました！

日常ではあまり使わない、「あはひ」という言葉が展示会のタイトルになっていますが…

山口：企画展は当館の4名の学芸員が担当したのですが、タイトルは4人でじっくり話し合って決めました。最終的に採用した「あはひ」は、間、境界という意味です。「あの世とこの世」のような二元論ではない、グレーな領域にあるもの、というイメージを探してたり着きました。分からないものを否定するのではなく、あってもいいな、というゆるやかさを表現できたら…そんな気持ちもありました。

塚本：身近な言葉でないだけに、準備段階では「もう少し分かりやすいタイトルを」という意見も出ました。でもお客様に境界に迷い込んだ感じを味わっていただきたくて、「あはひ」を使うことに決めました。

山口：境界のポンヤリした感じをねらって「あはひ」は旧仮名遣にしています(読みは「あわい」です)。ただやはりそれだけでは分かりにくいので、展示会の中身が具体的に分かるタイトルを副題にしました。「あやかし」は、妖怪や幽霊をまとめて言い表せる言葉として選んでいます。

塚本：最初は「あはひもの」などの表現も考えていましたが、次第に「あはひのクニ」のように、福島や東北の地域性を意識したタイトルになりました。「あはひ」をつなぐオシラ神・オンバサマ・来訪神などの信仰が東北に多いこと、有名な鬼妻伝説や木幡小平次のお話の舞台が福島であることなどを念頭に置いています。

山口：全体のテーマである、ゆらいで現れる「あはひ感(もやもやテスト)」(笑)は、デザイナーさんをお願いして、チラシや図録にうまく表現していただきました。

山口：展示室内に、映像や怪談話の朗読をお楽しみいただくコーナーを設けています。「百鬼夜行絵巻」や「化物絵巻」の妖怪たちを映像化して壁に投影したコーナー、「水虎之図」からカップを映像化し、泳ぐ様子を足元に投影したコーナー、会津の怪談・奇談の朗読音声をお楽しみいただくコーナーがあります。夜間開館日には特別に、ほの暗いエントランスホールの壁に「磐梯山の怪獣」というショートアニメ(「奥州会津怪獣の絵巻」を元にしたクリエイティブアニメーション)も投影していますよ。映像はすべて、今回の出品資料をモチーフにした、山田広野さん(活弁士・映画監督)によるオリジナル映像です。

塚本：会津に伝わる「老煙茶話」も最後のコーナーで展示しています。この「老煙茶話」と「会津怪談録」の内容はパネルでも紹介していますが、より伝わるように、朗読音声を会場で流すことにしました。

山口：会津らしく侍の話が多かったので、今回はプロの男性声優さんに、とりわけアニメ「昭和元禄落語心中」に出演された石田彰さんに朗読を依頼しました。収録には私も立ち会いましたが、事前に台本を読み込んでこられた石田さんからのご指摘を受けて、収録直前に文章を手直しした箇所もあります。さすがのお仕事で、人気のコーナーとなっています。

塚本：そのほか、ナイトタイムまちなか周遊企画「裏会津」(会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会主催)の一環として、専用アプリをダウンロードすると、企画展示室内やまちなかで不思議な音や声が聞こえる企画も進行中です。詳細は右のQRコードからご確認ください。

## テーマ展

# 「折りのふくしま5」

会期：9月4日(土)～10月17日(日) ※常設展料金でご覧いただけます。  
会場：部門展示室 歴史・美術

「折りのふくしま」と題して毎年ご紹介してきた本展も今年で5年目となります。地域に伝わる仏像には、破損したり、体の一部だけが残っていたり、何らかの理由で元の場所から避難せざるを得なかったものなどがあります。今回は地域の人々が守ってこられた「折りのきもち」に焦点を当てながら、そうした背景をもつ仏像などを紹介します。

写真の宮崎聖観音坐像(金山町)も昨年の風の被害でお堂の修理が必要になり、当館でお預かりすることとなりました。昭和の修理を経たため一見分かりにくいですが、制作年代が中世にさかのぼる古いお像です。この機会にご覧ください。

なおお像の修復に携わっていらっしゃる方に修復の意義などについてお話をうかがう講座も予定しています(10月3日、詳細は裏面参照)。(塚本)

## ポイント展 + プラス

# 発見! ハナワカクラ

会期：8月24日(火)～9月26日(日) ※無料です。  
会場：エントランスホール

今回のポイント展では、全長13メートルという大きなクジラの化石を展示します。境町の久保田層という約1000万年前の海の地層から発見されたものです。

昨年の夏、福島県子ども科学館の学芸員さんとこの久保田層を調査していたところ、写真のように細長い骨の化石が固まっているのを発見しました。これは珍しいと思い、何日も炎天下で汗をたくさん流しながら発掘しました。国立科学博物館との共同研究の結果、久保田層からは初めてとなる鯨脚類(アシカの仲間)の骨であることが判明しました。この化石もポイント展で展示します。大きなクジラだけでなく、アシカの仲間も泳いでいた様子を想像してみてください。(猪瀬)

## 収蔵庫 なじよな

収蔵庫に眠る膨大な資料の中から「キラリ」をご紹介しますコーナーです。

# 「人びとを支えた会津木綿」

今回は、江戸時代に若松城下の換断(町役人)や名主から、会津藩の担当役所へ訴え出たと思われる史料についてご紹介します。「覚」と題されたこの史料からは、会津木綿がいかに大切に使われ、人びとの生活の糧になっていたかが分かります。

書かれたのはある日(10月)の10月。いつの日か分からないのが残念ですが、内容にはこんなことが書かれています。意識してみましょう。

繭繭(精製前の繭)と古手(古着)と地木綿(会津木綿の生地)が、先月から御留物(会津藩領から持ち出し禁止)になりました。しかし最近、古くやぶれた生地を、縦ぎを当てたり染め返したりして、単物(裏地のない着物)や拾物(裏地のある着物)に縫い直し、会津藩領外へ売っています。こうした商品まで御留物になったら、古物をリメイクしてその日暮らしをしている若松の大勢の人びとが家業を失って困ってしまいます。どうかこのリメイク商品は、今まで通り出売を許していただけますように…

古物の中には、会津の地木綿以外のもも含まれていたと考えられますが、地元(会津)の会津木綿を含む木綿地が、いかに大切にされていたかがうかがえる史料です。(阿部)

# まっぼなじよな

## ～「あはひのクニ あやかしのクニ」へようこそ②～

1 マッキー。今回は怪獣に追いかけられて大変だったね。どうやらぼくたちは「あはひのクニ あやかしのクニ」に迷い込んでしまったみたいだね…。

2 忍法! 妖怪変化! ポンッ! どうだ! 河童に変身したよ!

3 うーっ! 河童たちがぼくを仲間と間違えて集まってきちゃった… どうしよう…

4 昔の人たちが目撃した河童情報をもとめた「水虎之図」。それに登場する河童たちがマッキーを仲間と間違っていて集まってきちゃったみたい…。河童は各地で色々な呼び方や姿形が伝わっているよ! みんなの周りにいる河童はどんな姿をしているかな? 河童を見た! っていう人は僕たちに教えてね!

【企画展チケットのご案内】  
\*夏の企画展は1,200円 (20名以上の団体は960円)  
\*秋の企画展は 800円 (20名以上の団体は640円)  
\*企画展チケットで常設展もご覧いただけます(企画展開催中有効)。\*高校生以下は企画展・常設展ともに無料です。

【年間パスポート】1,500円(即日発行)  
\*購入日から一年間、当館主催の企画展や常設展もご覧いただけます。  
\*夏の企画展と秋の企画展の両方を観覧予定の方は、お求めいただくと500円お得です!

## 秋の企画展

# 「ふくしま 藁の文化 ～わらって、すげえんだがら～」

10月9日(土)～12月19日(日) 【会場】企画展示室

秋の収穫期に開催する本展は、稲の副産物である藁(わら)に焦点をあてた展示会です。日本人の生活に溶け込んできた“わら”は、村境を守る巨大なわら人形から、衣食住全般の暮らしの道具にいたるまで、素材として自在に使われました。また年中行事や祭りでは、神様やその依り代(よりしろ)を形づくるものでもありました。そんな“わら”を味わう展示会の3つの柱について、担当の大里さんに聞きました。

1 最大の柱はわら人形です。当館にはまとまった「東日本のわら人形コレクション」があり、高さが4mもある大物も収蔵しています。かつて当館で「境の神・風の神」というわら人形の企画展を行いました(1988年)、今回は約30年ぶりのお披露目となります。具体的には、宮城県を除く東北各県と、関東(千葉、茨城、栃木)や新潟県のわら人形を一堂にご紹介します。大きさも表情もルーツも様々なわら人形。男女ペアとなるものもありますよ。ぜひ、見比べてみてください。広い面積を持つ福島県のわら人形は、隣接するさまざまな地域の影響を受けていることが分かります。また近年新たに収蔵したわら人形も展示しますが、その中には、これまで一般的には知られていなかった柳津町青中地区のニギョウマンギョウ行事のものもあります。地域に伝わる貴重な行事を、企画展を通して伝え残すことが、大切なテーマの一つです。

2 次の柱は、わらを用いた手仕事です。暮らしと密着して、人々はわらで様々な製品を作りました。蓑やわら靴、納豆やおにぎりなど食品を包む藁苞、藁布団など、生活用品の数々をご覧ください。また、思わずほほえんでしまうような、かわいらしいわら細工や、出来映えに見惚れてしまう見事なわら細工も、たっぷりご堪能いただけます。

3 3つ目の柱は、年中行事や祭りの場面で使われるわらです。お正月のしめ飾り、信夫三山眺参りやわらじ祭りの大わらじ(実際の1/4サイズ)など、大型の資料も展示します。毎年繰り返される年中行事では、その年の新しいわらで作るといっても意味があります。ちなみにお正月のしめ飾りは小正月行事で焚き上げることが多いですが、大型のわら製品などはそのまま朽ち果てるに任せられる場合もあります。わらは放っておいても自然に腐ります。今風に言うと、エコな素材でもありますね。人びとの暮らしのサイクルに寄り添ったわらにも、ご注目ください。

そのほかにも楽しい工夫があるようですが？

はい。米づくりを通して持続可能な食糧生産のあり方を考える、日本科学未来館の「ビューティフル・ライス～1000年おいしく食べられるように」という大型の円形模型展示を関連展示としてご覧いただけます。また、福島県立博物館の近くにある会津若松市立鶴城小学校さんと連携して、春からバケツ稲の栽培を行っています。展示会の会期中に当館の中庭や小学校の校庭で収穫期を迎えるバケツ稲。刈り取り、脱穀、はさがけによる稲の乾燥、わら細工作り…皆さんと一緒に体験の機会を設けたいと考えています。詳しくは企画展のチラシや次号のなじよなでご案内しますので、どうぞお楽しみに。

\*「水虎之図」(もりあか歴史文化館蔵)の河童さんには夏の企画展で出会えますよ!